

渡辺 匠

- ・震災の日、僕はまだ小学生でした。あの時間は理科室で実験をしていました。地震が起きたとき、ビーカーや薬品が落下してきてとても危険な状態でした。揺れがおさまり体育館に避難しました。移動すると母、弟、祖父母と会うことはできましたが、父と姉には会うことができませんでした。姉は高台にある中学校にいるから大丈夫だと思っていましたが、父は出かけていたので安否を確認できませんでした。
- ・3日後には父が現れ、流されなかった船で姉を迎えに行き、家族全員が揃いました。とてもうれしかったことを覚えています。
- ・震災が発生したことで失ったものもありますが、僕は家族や地域との絆が、避難所生活でお互いに協力し助け合ったことでとても深まりました。
- ・将来、私は漁師になりたいと思っています。震災を経験したことでその気持ちをさらに強くしました。今は津波によって海がまだきれいな状態ではありませんが、父と一緒に仕事をし地域の復興を支えていきたいと思っています。